



一般社団法人(非営利型)

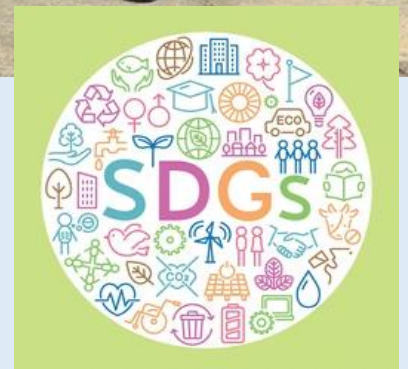
やまと災害ボランティア

ネットワーク

活動報告



ボランティア募集!!



防災から広がる支援

つながろう神奈川

CONTENTS

- 市原信行代表理事挨拶 & インタビュー記事
 - やまと災害ボランティアネットワークの概要
 - 2011年5月～2021年9月までの記録と写真
 - 活動にご協力いただいている企業・団体名
-
-

避難所での生活



地域と共に、つながろう神奈川

一般社団法人 やまと災害ボランティアネットワーク
代表理事 市原 信行

本日は、当団体を含む3団体の活動報告会にお越しいただき、誠にありがとうございます。昨今、各地で起きております様々な災害の被害を受けられております方々に心より追悼の意を表し、ご冥福とお見舞いを申し上げます。

2011年3月11日に発生した東日本大震災以降、各地での大きな災害が頻繁に発生し、多くの方々が犠牲となり、そのご家族の悲しみなどを見かけるたびに心を痛めております。その度に、自然災害を減らすことは不可能であると実感しております。しかし、地域が一丸となって日ごろから防災、減災活動などを行うことにより、被害は減らすことができると考えております。

そして当団体も、皆様のご協力とご理解のもと、2021年4月において21年間、災害救援、子ども支援を含む様々な活動を行うことができました。誠に数多くの方々に支えられてここまで来られましたこと、ひとえに皆様のお陰と感謝の念に堪えません。

阪神淡路大震災をきっかけとして、やまと災害ボランティアネットワークが立ち上がり、各地での災害ボランティアの育成と防災意識の向上を掲げ、活動を行ってまいりました。

また東日本大震災以降、災害支援団体として、全国の被災地に足を運び、支援活動などを行いました。中でも東日本大震災では、被災された宮城県東松島市を中心に活動拠点を設け、3年半にも及ぶ現地での活動を通し、災害がもたらす悲しみや苦しみを目の当たりにし、またその後の復興の模様を見つめてまいりました。

被災地の実態や被災された方々の苦しみ、ご苦労には想像を絶するものがあります。このような苦しみや悲しみを二度と繰り返したくない！という思いで、地域防災にも力を注いでまいりました。地域防災において子どもたちの力は欠かせません。子ども達を通しての福祉と防災を共に考えていただくため、宮城県や東北各地、および神奈川県にて福祉防災教育、また被災児童がいる児童養護施設への支援活動、全国各地の被災地での災害ボランティアセンター開設準備などにも関わってまいりました。被災地での活動、被災地域との交流や被災地の災害ボランティア連絡会などにも加盟、各地での被災地の方々との交流も続け現在に至っております。

そして2019（令和元）年台風15・19号では神奈川県内にも大きな被害をもたらしました。横浜市金沢区にある工業団地内での高波被害において、団地組合、地域や行政、社協と一体になり資材置き場や集合場所等として道路予定地や公園内などを確保していただき、そこを拠点として支援活動を行いました。

川崎では内水氾濫が発生し、地域自治会からの要請に応じる形で行政より資材置き場として道路予定地などもお借りし、社協と共に活動を行うことができました。

また、相模原市緑区にある藤野地区では、地域自治会の方々や被災された方々、相模原市の行政や市関係機関、地区社協や市社協、および藤野地区の日本青年会議所や商工会などと共に1年半におよぶ被災地での活動を行いました。そのご縁で現在も被災地域の方々との交流および地域支援も行っています。

さらに被災地の方々のご縁から、当団体の災害ボランティア資機材、備蓄品、重機、車両等の拠点として、緑区名倉に『相模原市藤野 名倉倉庫』を設置することができました。さらに本年、2021年8月には、活動拠点およびストックヤードとして『かけはし・やなぎばし』が整備され、『大和市柳橋 やまと倉庫』も設けることができました。『かけはし・やなぎばし』を拠点とし、本年9月に認可された【特定非営利活動法人ユナイテッドかながわ】と共に、災害支援を含む防災と減災は、地域との連携が不可欠であるという理念を基に、地域防災と地域福祉、および地域の児童支援などの活動を展開しております。

やまと災害ボランティアネットワークは今後も、ユナイテッドかながわと協働活動を行い、防災、減災、災害被災地支援活動を中心に『災害特化中間支援組織』を目指して活動を行ってまいります。

今後とも、やまと災害ボランティアネットワークおよびユナイテッドかながわ両団体へのご支援とご協力、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

自然災害は、いつ起きてもおかしくはありません。「想定外」では済まされない状況です。首都圏直下型地震、大型台風、集中豪雨などの大きな被害を被らないためにも、日々の防災意識向上を皆様をお願いをして、やまと災害ボランティアネットワーク21年間の活動報告とさせていただきます。

この活動報告会にお集まりいただきました皆様のご活躍およびご健康を祈念し、ここに報告会の挨拶とさせていただきます。今後とも引き続きお力をお貸しください。どうぞよろしくお願い申し上げます。本日は、誠にありがとうございました。

2021年11月6日



相模原市藤野地区 土砂の除去

市原代表のインタビュー記事

大和市民活動センター広報誌(2017年10月10日発行)

人生を変えた“3・11”

【市民活動にこの人あり】第19回

一般社団法人 やまと災害ボランティアネットワーク 代表理事 **市原信行さん**

昨年の熊本地震、今年の福岡豪雨。大災害が発生するといち早く現地へ駆けつける市原さん。プロの災害ボランティアコーディネーターとして、現地の実情やニーズを正確に把握し受け入れ体制をつくるためだ。市原さんは1960年東京は大田区羽田の生まれ。小学時代から野球少年で、川崎球場には自転車よく通った。大学以外はずっと大田区で就職も地元整備会社に。その後、川崎の建物管理会社に転職したが、当時景気がよく同様な事業でほどなく独立。いま正社員5人の会社だが健在だ。

仕事柄、各種施工管理技師の資格を取得。建設系重機車両は免許に加え講師の資格も持ち、いま月に1週間は教えている。近年、重機ボランティアも認められ被災地で運転することも。また、大学時代から地元消防団にも参加し、川崎に移ってからも続けた。こう聞くと現場肌の人間に思えるが、本人曰くむしろ営業・調整型だとか。大和に来たのは2002年。すでに1998年にやまと災害ボランティアネットワーク(災ボラ)は設立され、毎年学校体育館で宿泊体験など実施していた。市原さんも加わったが、都合が合うときに手伝う程度。市原さんの人生を変えたのは、他ならぬ“3・11”だった。

3月15日に釣りやスキーの趣味仲間50人と横浜でバーベキュー大会を予定していたが大震災が発生。可能な人だけでも集まったのは30人。自ずと震災の話題が中心となり、できることをやろうと支援物資を集めることになった。3日で何トンも集まり、友人からマイクロバスの提供も受けた。都合がつく5人で消息不明の大船渡に住む仲間の友人宅を目指したが、途中で物資を必要とする人が多く、着く前になくなった。被災地のあまりの悲惨さを目の当たりにし、「この現実を誰かが伝えなければ。それには自分が続けるしかない」と痛感。こうして市原さ

んの被災地との往復が始まった。被災地入り許可のために、震災支援の会(のちにサポートチームG)として団体を設立し登録。3月に3回、4月だけで10回近くは通った。そして迎えた5月のゴールデンウィーク。支援を続けるため、なんと仕事をやめることを決意。家族は「何考えているの!」とあきれかえったが、会社はすでに社員だった息子たち3人に任せた。

熱心に通ううち、現地拠点も確保でき宅配便の荷受けもできるようになった。県下自治体が集めた放置自転車を現地の足用に提供してもらい200台も届けた。結局2011~14年は毎年半年以上は東松島にいた。2013年、災ボラ代表の引退を機にサポートチームGと合併し、市原さんが代表になり一般社団法人として再出発。いまや県下有数の支援団体だ。被災地を支援し、被災者の苦悩を地元へ伝えることで、災害に強い地域を作っていくことが市原さんの願いだ。いま力を入れているのは、地元のために活躍できる若い災害ボランティアコーディネーターを育てること。しかし、自分がこの道のプロにならないと後進は育てられないという。市原さんに「プロフェッショナルとは?」と聞きそびれたが、確たる流儀と覚悟があることを強く感じた。



▲今年7月の福岡豪雨で、現地地区長(右)と(後ろは区長さん)

東日本大震災発災 約 1か月後

(宮城県東松島市野蒜地区)



TSUBASA インタビュー「やまと災害ボランティアネットワーク」

東日本大震災と7月九州豪雨 災害の経験を教訓に

地震・台風・豪雨など、毎年のように日本各地を襲う自然災害。「やまと災害ボランティアネットワーク」は災害地への復興支援を中心に、地域の防災力強化や、ボランティア参加を通じたユースの人材育成を行っています。大和市民活動センターは、代表理事の市原信行さんにインタビューの機会をいただき、コロナ禍で団体が受けた影響や、7月九州豪雨に対する団体の役割について伺いました。



市原信行さん
やまと災害ボランティアネットワーク代表理事として活動を支援しています。

1- 団体の活動内容を教えて下さい

「大和災害ボランティアネットワーク」は阪神淡路大震災をきっかけに1999年に成立しました。現在の会員は約30名で、直近では昨年の台風で被害を受けた、横浜市、川崎市、相模原市への災害支援を毎週のように行っています。

例えば相模原市では土砂災害が多かったので、余計な土砂を撤去する作業をしています。災害が落ち着いた際には、月に1回くらいの頻度で机の上で勉強する研修をやっていきます。

地域の防災力強化も行っています。自治会とか、子供会とか、学校に呼ばれて講演を行うこともあります。大和市では、人口に対して避難所の収容人数が足りていないことから、「各避難所を見直そう」と声かけをしています。また避難所にどんな支援物資があるのか、毛布や水などがあるのかなど、地域の人たちに考えて欲しいことをお伝えしています。

2- 東日本大震災の被災地でも学生ボランティアが活動したそうですね

2011年東日本大震災の震災後すぐに宮城県避難所にお邪魔させていただいて、避難者の方々と一緒に生活したことがありました。その時に、避難所にいた若い子たちが、力や知恵を発揮していたり、大人の方々に元気付けたりしていたことを僕は現場で見ました。若い子たちがそばにいてということ自体、元気が出る一つの要因であると感じました。

そこで若い子たちに現状をしっかり見てもらいたいということで、2012年から、児童が94人亡くなった「大川小学校」などに訪問させていただいています。

ボランティアの男の子と女の子たちは、実際に子供さんを亡くしたお父さんお母さんから「同じ学年の子たちがこで亡くなったんだ」というお話を聞くだけでも、みんな涙するんですね。なんで防げなかったのかとか、近くの裏山へどうしていけないのかなど、

みんなはお話を聞いていました。

ボランティアに参加した子たちの中には、大学で「防災サークル」をやっていたり、「人のためになるような仕事にしたい」と、消防士になったりとか、看護師になったり、あるいは自衛隊に入ったりなど、自分の就職について、人のためになることを考えてくれる子が多かったように思います。



学生ボランティアは石巻市大川小学校跡地を訪れ、献花と黙祷を行った。

3- 団体活動へのコロナの影響は

月に一度の研修活動はコロナでの影響で全く止まっちゃいましたね。相模原や川崎の災害現場の活動でも、外出自粛があったので、困っている方々がそのままの状態ですとストップしてしまうところがありました。

作業を再開できたとしても、家の床下に入っている泥を取る時には、密になりますし、マスクしての作業は非常に辛いことがあるんですね。

また、東日本大震災で親を亡くして児童養護施設に入らざるを得なかった宮城県の子供たちを支援するために、2泊3日の自然体験学習を石巻市の網地島で開いてきましたが、それもできなくなってしまいました。

2012年から毎年続けてきた大事な事業の一つでした。今までは網地島の方々と、児童は40人、先生方は10人、ボランティアの大学生は50人くらいで自然体験学習を開いてきました。我々のすごく大きな思いがある事業だったので、非常に残念でした。

4- 7月九州豪雨の被災地へ支援をされているそうですが

16年の熊本地震の時に一緒に活動した方と仲良くなって、その方がたまたま球磨村で働く職員さんだった。災害の状況についてきいてみたら、「自宅の周りの車が全部陥没しちゃって、周りの状況すらわからない」と話していました。どうしようかと思いましたが、熊本での活動を続けることにしました。

被災地まで大変な距離があるので、今回の豪雨災害のお手伝いをするのは非常に難しいことです。やはり人員や資機材の確保、宿泊場所や活動拠点など、トイレ一つをとっても問題があります。その中で我々の役割の1つは、災害



7月九州豪雨への支援物資を届ける窓口として、資機材・食料・消耗品を受け付けた。

に対して物資などを支援する窓口を作ることです。地域の防災力には、どういふ風に支援を受けるかという「受援力」を高めることが大切だと思っていますので、災害に対して支援することを経験していただき、地域の防災力を高めることも考えています。

もう1つの役割として、地域をもう一回盛り上げることも考えていきたいです。地元のみでなく外部の力が必要なところがありますので、具体的には、細々でも見て学び、活動し、それを教訓とする。そこに特に若い人たちに参加してもらいたいと思います。

5- 市原さんが目指す「防災」とは

大和には地域で活動されている方が多くいらっしゃるの、大和の中でも若い人たちと一緒に地域を盛り上げる活動をしてもらおうと、大和市自体も盛り上がるんじゃないか感じています。僕はそこに防災を入れてもらえないかと思っています。「福祉と防災」とか「子供と防災」とか、僕の役割はそこにあると思うので、一緒に地域の盛り上がりを感じていただけたら嬉しいなと思います。(サポーター尾畑翼)

網地島(あじしま)



● 網地島ふるさと楽好

● 一般社団法人 やまと災害ボランティアネットワーク

宮城県網地島：児童養護施設の子どもたちに自然体験をさせるプロジェクト

8月2日、宮城県石巻市の網地島で行なわれた「自然体験プロジェクト」を視察しました。これは児童養護施設に入所する子どもたちを網地島に招待し、自然体験をさせるというものです。

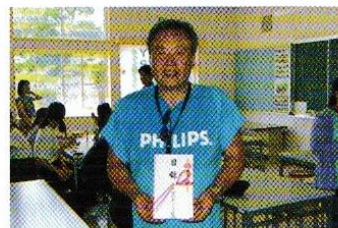
網地島ふるさと楽好は地元住民の団体で、児童養護施設の子どもの自然体験学習の主催者です。やまと災害ボランティアネットワークは神奈川県のもので、共催者としてボランティアの指揮をとっています。

石巻市の港から船で1時間で網地島に着きました。児童養護施設の子どもたちを出迎えて旧中学校に移動し、開校式を見学しました。子ども27名、引率の先生10名、ボランティア42名、その他の大人が20名、計約100名の大所帯です。ボランティアの大学生は初参加がほとんどで、ボランティアサークルに入っている方が多いようです。

開校式のあと、子どもたちは海水浴へ。綺麗な海でカヤックに乗ったり、泳いだりと、とても楽しそうでした。施設ではできない自然体験や、ボランティアや地元住民の方との触れ合いは子どもたちの心に残る感じました。



網地島ふるさと楽好



やまと災害ボランティアネットワーク

震災で親を亡くされた児童への支援や児童養護施設の子供たちの体験学習
児童養護施設での縁日や昼食会、島の方々や児童へお笑い(笑顔の)提供
など、石巻市網地島(あじしま)での活動は毎年行っています。



児童養護施設の子ども達支援活動IN網地島 活動報告

本年も震災孤児などがいる施設への支援活動を行う事ができました。

2017年6月から準備に入り、網地島などへも数度となくお伺いし、打合せを行いました。

昨年来、本年度の開催が危ぶまれていましたが、多くの協力者の元、規模を縮小してでも開催しようと話し合い、開催にこぎつけることが出来ました。今年も当団体からは、10名のボランティアさん方が参加、事前準備、本開催、片づけなど含め10日前後の活動でした。

本開催は8月4・5・6日の3日間でした、天候は今一でしたが、時には晴れ間も、暑い時もあり、子ども達約40名は元気に体験学習や海、山、農地などに触れ、諸活動を行う事ができました。

今年も海の海産物が多数、子ども達も普段、生ものは口にできないのですが、美味しい、美味しいと準備した魚などはほぼ完食、こんなに食べたのははじめてだ～～、などと言う子供たちもいました、また夜は肝試しも行き、どうしても参加できない子ども3名が常に自分と宿舎のロビーでうずくまっていました(笑)。

キャンプファイヤーもみな大喜びです、今年は少し虫も多かったようでしたが、けがもなく、事故もなく、大きな笑い声が網地島に届いた3日間でした。

参加してくれた子ども達、ありがとう。協力してくれた方々、ありがとうございました。

そして網地島の方々、本当にご苦労様でした。

来年からの事業については、現在更に協力等を求め、開催を目指します、更なる皆様からのご協力をよろしくお願いいたします。



今年はこのメンバーで準備から本開催、片づけまでを行いました。

子ども達の顔写真は掲載できませんので、あしからず。

網地島ライン、フェリーを背に、開催日に来てくれた大学生などとメンバーです。

右は網地島の方々と共に、宿泊施設でもある、廃校の中学校にて、もっと島民の方々もいらっしゃるのですが・・・。(笑)

施設の子ども達は、みなまた必ず来るね～と、島の方々はまだ来てね～～と、職員の方々も子どもの、普段見れない姿や、数日での変わりように、びっくりポン！ですと。おっしゃっていただけました。

子ども達にとって短い2泊3日の期間でしたが、大変有意義な自然体験学習であったと思っております。

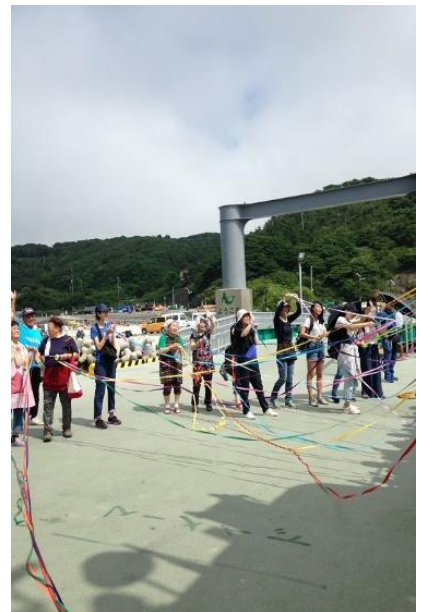


2017年 海での様々な体験、すいか割りも行いました～



昼食はカレーライスの時も、キャンプファイヤーでは子ども達のはしゃぎ声。

BBQでの海産物、焼きおにぎり(みそ)も大変美味しかったです。(笑)

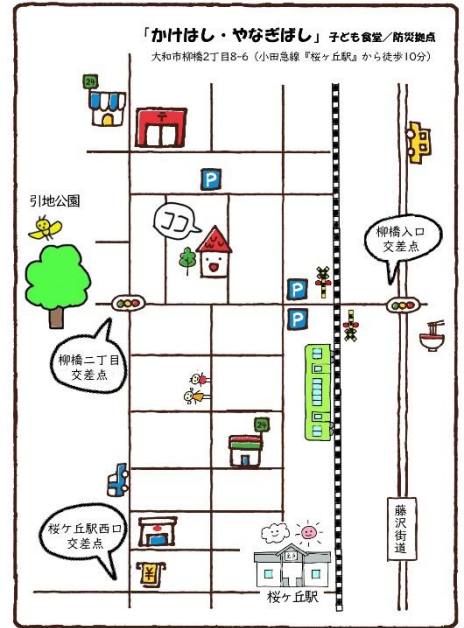


廃校の体育館での活動も、そして別れはフェリーから、テープでのお別れとなりました、準備を頂いた島のお母さん方も、最後は、涙、涙・・・でのお別れでした、フェリーが見えなくなるまで手を振ってのお別れとなりました。来年も何とか開催しましょうと、皆さんと共にはなし、全行程が終了いたしました。ありがとうございました。

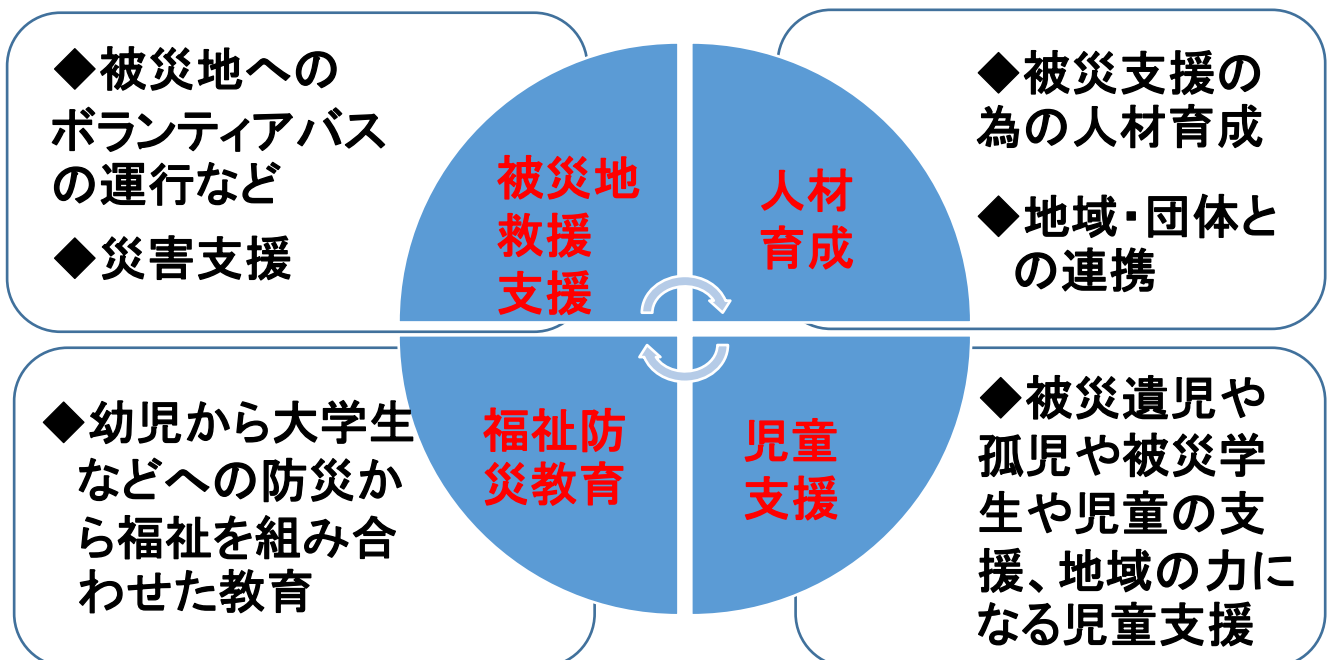
2017.8.10 やまと災害ボランティアネットワーク
市原 信行

YSV 概要

設立	1999年4月1日
本部 事務所	〒242-0021 大和市中心1-4-4 ウイングマンションファルコン208 一般社団法人(非営利型) やまと災害 ボランティアネットワーク
活動 拠点	【かけはし・やなぎばし】 〒242-0022 大和市柳橋2丁目8-6



メール	ysv401@yahoo.co.jp
HP	http://ysvn.web.fc2.com
SNS	https://www.facebook.com/ysv0401/ https://twitter.com/ysv0401/



YSV活動のアルバム

災害ボランティアコーディネーター 養成講座 2000年



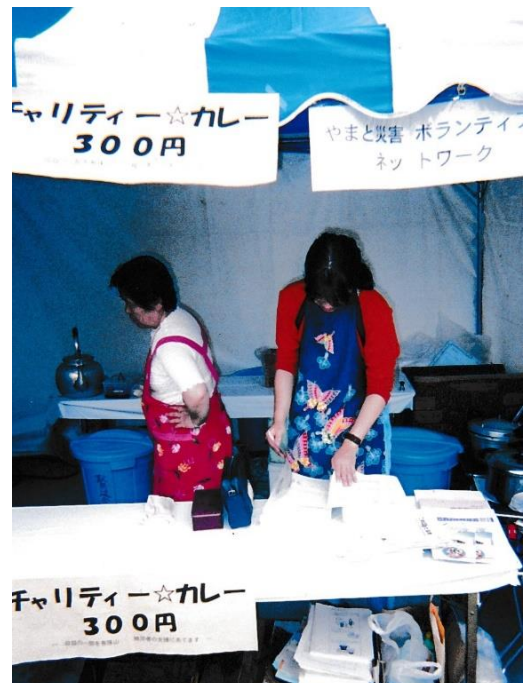
災害体験フェア



災害体験フェア



やまと祭り 2001年



福祉防災教育、INかながわ、IN宮城、網地島ふるさと楽校



2013年東松島市宮戸
月浜海水浴場安全祈願
(この年海開きができた)

あじしまふるさと楽校、島のお
母さん方が児童のも送りで、
毎年涙のお別れ。



福祉防災研修2015年IN宮城(宮城、神奈川、兵庫、
東京、千葉の高校生が集まる。)



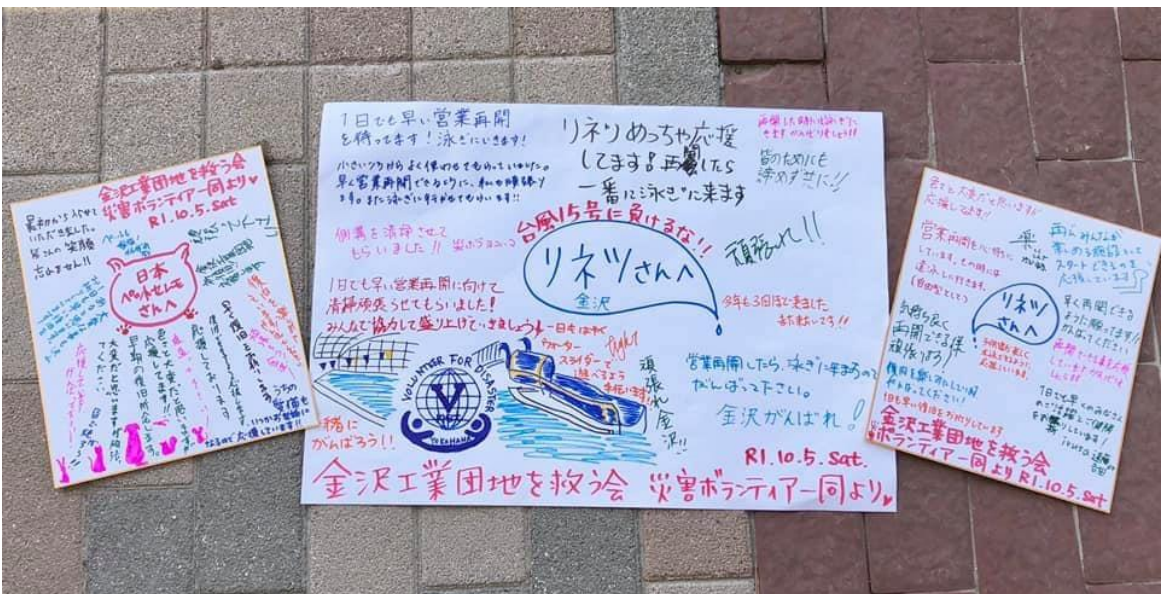
福祉防災研修
IN宮城(高校生)



大和市の被災地体験事業、
実行委員として同行



横浜市金沢区での活動者の寄せ書き



2019年台風15号災害支援



「2019年台風15号災害、横浜市金沢区工業団地を救う会」

2019年9月立ち上げ(発起人5名)

今回(台風15号)の活動では、やまと災害ボランティアネットワーク代表理事の市原が呼びかけ、金沢区や横浜市、金沢区社会福祉協議会、横浜市社会福祉協議会、神奈川県、神奈川県社会福祉協議会などと連携し災害復旧活動を行いました。



台風19号被害 川崎市中原区宮内自治会、高津区諏訪第一自治会
中原区、高津区、川崎市社会福祉協議会、川崎市、神奈川県、神奈川県社会福祉協議会、神奈川災害ボランティアネットワークなどとの連携で災害復旧活動を行いました。

2019年台風19号災害支援



土砂被害を受けた
相模原市藤野地区への
復旧支援の様子

台風 19 号被害支援者情報共有会議
(藤野中央公民館)



相模原市緑区名倉にある
「名倉倉庫」

2020年7月豪雨災害支援

令和2年7月豪雨災害支援 報告1

2020.7.13

一般社団法人 やまと災害ボランティアネットワーク
ユナイテッドかながわ
一般社団法人 青少年育成支援 大和の心
一般財団法人 大和の心芸術文化財団

2020年7月4日より降り始めた豪雨により、九州地方や中国地方、信越、東海地方に大きな被害をもたらしました、当団体では神奈川県内で活動を行い、同じ志を持つ各団体と共に、この7月豪雨災害支援活動を7月6日より始めました。

ご縁があり、熊本県球磨村渡地区への支援活動を行うことになり、まずは資機材や支援物資の募集、現地への支援金の募集など開始。

7月10日に熊本県球磨村渡地区への物資等の配送へ出発、翌11日に同、渡地区の渡保育園（園へお届けしました。）を通し、渡地区住民への資機材、支援物資などの配布を開始しました。

コロナ完成症対策のため、現地での活動は、今回はかないませんが、可能な範囲今後も同地区（他の被災地区へも）への支援活動を行っていきたいと考えております。

多くの皆さまから第1弾の支援として物資や資機材、今活動への活動資金、現地への寄付金等のご支援を頂きましたこと、本当にありがとうございました。

4団体が責任を持ち現地へと、しっかり届けてくれることが出来ました。

今後も活動を続けてきます、別紙必要なものなどございますので、ご協力を頂戴できれば幸いです。



渡地区ローソン（被害が著しいです）



渡地区総合運動公園 駐車場に自衛隊基地局

※この活動は被災地が落ち着きを戻せるまで継続をしていきます。

2020年7月豪雨災害支援



渡地区の被害状況 各家の1階以上が浸水



多くの家具を廃棄は処分しなくてはならない



電車なども普通 線路など被害も



川が氾濫しゴミが橋などに残ったまま

(写真はいずれも2020年7月10～11日などに撮影)



建物2階部分まで洪水が



家屋の中はすべて出さなければならない



熊本県球磨村渡地区の某保育園へお届けをしてきました、園が近隣への配布など行っているいただきます(園児の保護者や近隣住民へなど)。

コロナ対策の中、最大限の対策を施し、お届けしました。



2020年7月豪雨災害支援



神奈川新聞1面見出しとニュース欄に活動などが掲載されました。



人吉市などでも大きな被害が、家財など廃棄せざる負えないものが道路などにやまずみ



マイクロバスと、ワゴン車計2台で荷物を満載にして運びました、自転車や一輪車なども何とか積み込みました。

食料品、おむつ、ミルク、衣料、タオル類、お米、清掃道具や消毒、衛生用品歯ブラシなどと共に資機材、スコップや水かき、ホースなどの清掃に必要なもの、また皆様から頂戴しました、支援金や義援金など有効にお届けすることが出来ました。

神奈川県内では、7月豪雨に支援している初めての活動となります。

引き続き、支援物資や資機材、活動への支援金、現地への義援金などを募集しています、(別紙参照願います)皆様のご協力が必要です、ご支援をお願いいたします。

大和の心 共同代表 高橋玉樹
やまと災害・ユナイテッドかながわ 代表 市原 信行

令和2年7月豪雨災害支援先からのお礼状

一般社団法人 やまと災害ボランティアネットワーク

代表理事 市原 信行 様

御 礼

このたびは熊本豪雨の被害に際し早速の支援物資を賜り心より感謝申し上げます。

報道等でご承知のとおり、今回の熊本豪雨は当地において甚大な被害をもたらしました。幸いにも本園の園児・保護者の方々は皆無事で園舎自体も被害は受けておりませんでした。保護者を含めた多くの世帯で家屋が浸水し大きな被害を受けた方々もおられます。園の隣の運動公園には仮設住宅が建ちずでに住まれています。さらに追加の住宅建設も進んでいる状況です。

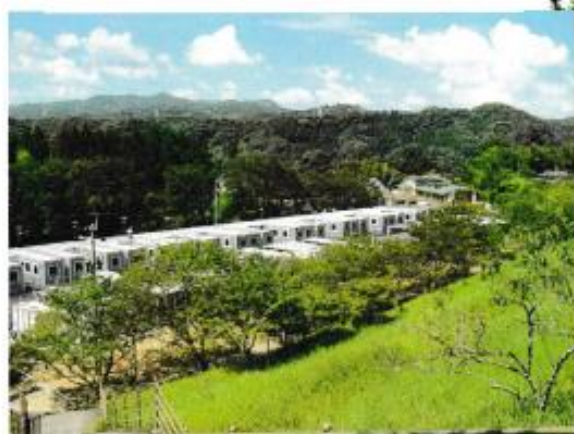
今回の豪雨災害において、皆様から頂戴しました心温まる支援を糧に、園児の心身のケアに十分に配慮し、職員一同保護者・地域に寄り添いながら精進してまいりたいと思います。復興までにはしばらくかかりそうですが、今後とも引き続きお力添えを賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

甚だ簡単ではございますが、まずはご報告かたがた支援物資提供の御礼を申し上げます。ご協力いただいた他の皆様にも宜しくお伝え下さい。

令和2年8月19日

社会福祉法人渡保育園 園長 上田 博 考

(手前が仮設住宅 奥のみどり屋根が園舎)



(渡保育園 年長児)

令和2年7月豪雨災害支援先からのお礼状 2

たべもの を も ち だ せ ち

お礼がとろとろになります。うれしくてがんと涙がでました。

これから先が心配です。

くまもり 村でついでに かんきょう してあげて



やまと災害ボランティアネットワークの呼びかけで、多くの支援物資が集まりました



支援先での物資保管の様子
(熊本県球磨郡球磨村 渡保育園)

避難生活トイレの準備を

かながわ 防災レポート



大きな災害が起きたとき、避難生活に欠かせないものとして、トイレがある。忘れてはいけない「備え」なのに、水や食料に比べて、支援は遅れがちだ。各自治体は災害用トイレの確保を進めるが、まだまだ十分とは言えない。

大和市の市民団体「やまと災害ボランティアネットワーク」は5日、「マンホールトイレ」の組み立て訓練を行った。自宅などが被災してトイレを使えなくなったときに、下水道に用をたすためのグッズだ。

アルミ製のパイプで洋式トイレの枠を組み立て、背もたれや手すりを取り付け、便座を乗せる。全体を覆うテントを設置するまで10分もかからなかった。市立柳橋小4年の粟嶋倅大君(10)は「これなら僕でも手伝える」と目を輝かせた。

団体の市原信行代表理事(61)は被災地での活動を通じて



マンホールトイレの組み立て訓練をする「やまと災害ボランティアネットワーク」のメンバー(5日、大和市で)

てトイレの重要性を痛感し、地域にマンホールトイレを普及させたいと張り切る。「高齢化が進んでいるので子供たちも協力してほしい」と若い力に期待する。

災害用トイレには、マンホールトイレのほか、洋式便器を袋で覆い大小便を凝固剤で固める携帯トイレ、持ち運びができる簡易トイレ、一時的に設置する仮設トイレがある。

携帯用 市民にも備蓄呼び掛け

難所に計892基、さらに機動的に使える164基の計1056基を準備している。マンホールトイレは主に断水時の使用を想定しており、災害時では補助的な位置づけだ。いずれにせよ、マンホールトイレや仮設トイレは避難者50～100人に1基が必要とされ、どの自治体も十分な数が確保されているとはいえない。

川崎市や大和市は携帯トイレの備蓄に力を入れる。コロナ禍などで在宅避難を希望する人が多いこともあり、携帯トイレの備蓄を住民にも呼びかけている。

日本トイレ研究所(東京)の加藤篤代表理事も「個人が用意できる携帯トイレは初動対応に不可欠」と強調する。携帯トイレはホームセンターやインターネットで手軽に入手可能で、自宅に倒壊などの恐れがないなら、断水しても使い慣れたトイレを活用できる。「大切なのは安心感。1度体験して安心して使えるものを選んでほしい」と勧めている。(池尻敦)

マンホールトイレの活用は積極的な横浜市は、再来年度までに市内460か所の避難所に加え、本庁舎や各区役所、災害拠点病院の計483か所に5基ずつを置く計画で、昨年度末までに計1660基を配備。今年度はマンションや町内会館などで取り入れる際の補助制度も始めた。

相模原市は「備蓄の主軸は組み立て式の仮設トイレ」(危機管理課)という。105選

◆携帯トイレの使い方のポイント

(日本トイレ研究所の助言による)

- ▷ いったん便座を上げて45センチほどのポリ袋をかぶせた後、便座を下ろし、その上から携帯トイレを取り付ける
- ▷ 1人あたり1日5回の使用を目安とし、1週間分を備蓄する。2人家族なら70回分、3人なら105回分を用意
- ▷ トイレットペーパーやウェットティッシュ、アルコール消毒液などの手指衛生用品も用意。ヘッドライトやランタンがあると両手が使える
- ▷ 使用後の携帯トイレの回収と処分方法は自治体に確認を。多くは可燃ごみとして扱われる

活動拠点『かけはし・やなぎばし』大和市柳橋2-8-6

2021年8月9日(日)、やまと災害ボランティアネットワークおよびユナイテッドかながわの活動拠点となる『かけはし・やなぎばし』のオープニングイベントを行いました。そこで子どもを対象に、マンホールトイレ設置訓練を行いました。

2011年の活動実績



- ◆2011/4/19 東日本大震災現地での活動を開始
 - 東日本震災災害支援活動
石巻 某介護センター（新たに再開する）に冷蔵庫・洗濯機等家電、食器類、衣類等お届け出来ました。
- ◆2011/6/12
 - 東日本震災災害支援活動
気仙沼の某体育館において写真の整理のお手伝いをしました。
- ◆2011/6/25
 - 東日本震災災害支援活動
川崎市より、再生自転車50台を寄贈して頂き、松島市へ届けました。
- ◆2011/7/5、2011/7/15
 - 東日本震災災害支援活動
横浜市より、自転車50台、相模原市より、自転車40台を寄贈して頂き、大和市より、自転車30台を東松島市へ届けました。
- ◆2011/7/18
 - 東日本震災災害支援活動
復興バザーを開催しました。350名の来場者がありました。
- ◆2011/7/23
 - 東日本震災災害支援活動
東松島コミュニティーセンターで 教育委員会主催 夏祭りのお手伝いをしました。
- ◆2011/7/24～2011/9/3
 - 東日本震災災害支援活動
野蒜小学校、宮戸・月浜、大浜で片付、草刈、写真の洗浄作業、泥出し作業を行いました。
- ◆2011/9/10～2011/9/29
 - 東日本震災災害支援活動
東名地区の清掃・家具の配布・バザー、月浜・大浜地区での海岸清掃を行いました。沢山の企業の方々がボランティア活動に協力して頂きました。
- ◆2011/10/30
 - 東日本震災災害支援活動
野蒜復興祭に参加しました。
- ◆2011/10/3
 - 東日本震災災害支援活動
みやぎスマイルサポーター認定書を頂きました。
- ◆2011/11/1～2011/11/5
 - 東日本震災災害支援活動
月浜、宮戸・室浜の側溝清掃、草刈り、共同墓地の清掃を行いました。
- ◆2011/12/1～2011/12/18
 - 東日本震災災害支援活動
月浜の側溝清掃、野蒜亀岡近辺の清掃を行いました。
月浜・里浜・大浜・室浜 それぞれ 計5台コンテナを搬入しました。
- ◆2011/12/21～2011/12/22
 - 東日本震災災害支援活動
赤井地区・大曲地区にホットカーペット、毛布などを在宅被災者にお配りしました。
- ◆2011/12/23
 - 東日本震災災害支援活動
亀岡東地区の野蒜小学校体育館裏からの避難場所の整備をしました。



2012年の活動実績



◆2012/1/15～29

■東日本震災災害支援活動

避難路の照明設置、野蒜亀岡地区の清掃、側溝清掃、野蒜共同墓地の供養祭を行いました。

◆2012/2/2～26

■東日本震災災害支援活動

東北放送のラジオ番組の出演、東松島小野地区に於いて、冬対策支援物資の配布会、宮戸・里浜の民3宿の清掃活動、野蒜亀岡地区・宮戸地区の雪かき、亀岡 海津見神社清掃を行いました。

◆2012/3/6～31

■東日本震災復興支援活動

神奈川県大和市にて 本部役員会の開催、宮戸に仮設店舗 オープンの準備、里浜の清掃活動および支援物資の整理を行いました。

◆2012/4/1～9

■東日本震災復興支援活動

宮戸大高森の落石岩盤撤去作業、宮戸月浜テントの修理を行いました。東松島復興協議会に出席しました。東松島市長より感謝状を頂きました。

◆2012/5/13

■東日本震災災害支援活動報告会

大和市勤労福祉会館にて活動報告会 & 被災者体験報告会を行いました。



◆2012/11/22～24

■東日本震災復興支援活動

奥松島地区復興支援活動（ボランティア・バス）を行いました。



◆2012/12/9～24

■東日本震災災害支援活動

土浦社会福祉協議会主催 被災地講演会の参加、横浜市関内の建築安全協会 東北震災支援活動報告会に参加しました。奥松島野蒜地区の公民館で、クリスマス焼き牡蠣懇親会を開催しました。



2013年の活動実績



◆2013/1/11～13

■宮城県災害復旧活動

奥松島の仮説住宅を中心に、新年のご挨拶を兼ねて軍手の配布を行いました。



◆2013/2/6～8

■宮城県災害復旧活動

奥松島で、ふんばろ一京都さんから頂いた「使い捨てカイロ」を配布しました。



◆2013/1/19

■大和市防災展

イオン鶴間店で大和市防災展に出展しました。

◆2013/2/26

■宮城県東松山市への寄付の支援

東松島市の小中学校22校と図書館へ、「Aboc社・東北震災支援事業」さんから図書の寄贈して頂きました。

◆2013/3/2～3

■静岡県ボランティア協会主催の図上訓練参加

静岡県ボランティア協会主催の図上訓練に参加しました。
静岡県三島市と災害ボランティアの協力体制を築きました。

◆2013/4/4～6

■宮城県支援活動

奥松島10か所にドームテント10基を設置しました。

◆2013/4/14

■奥野松特産品販売 in やまと桜まつり

やまと桜まつりで奥松島の特産品を販売しました。

◆2013/5/3～5

■宮城県奥野松支援活動

奥松島で「希望のあかりまつり」を開催しました。

◆2013/5/25

■一般社団法人 やまと災害ボランティアネットワークの発足

サポートチームGが、「一般社団法人 やまと災害ボランティアネットワーク」と合併になりました。

◆2013/6/24

■月浜の海開き準備

月浜の海開きの準備行いました。

2014年～2017年活動実績



- ◆2014/2/15～16
 - 宮城県石巻高校交流会とワークショップ
石巻西高等学校の生徒さん方との交流会と、防災カレンダー制作のワークショップを行いました。
- ◆2014/3/15
 - 海藤節生 震災復興トーク&LIVE
海藤節生 震災復興トーク&LIVEを行いました。
- ◆2015/3/14
 - 鶴見高校防災研修
鶴見高校防災研修を行いました。
- ◆2015/3/15
 - 平塚高校防災研修
平塚高校防災研修を行いました。
- ◆2015/4/18
 - 年網地島笑って元気プロジェクト
2015年網地島笑って元気プロジェクトを行いました。
- ◆2015/7/25
 - 防災研修と事前研修会
防災研修および、事前説明会を行いました。
- ◆2015/8/10～12
 - 防災研修 in 宮城県
夏の防災研修In宮城を行いました。
- ◆2015/9/11～13
 - 秋の防災研修を行いました。
- ◆2015/10/24
 - 児童養護施設白百合園支援事業
児童養護施設白百合園支援事業を行いました。
- ◆2015/10/25
 - 宮城県石巻支援活動
石巻西高等学校支援活動を行いました。
- ◆2015/11/01
 - 茨城県常総市水害支援活動
常総市ボランティアバス計3便 を出動しました。
- ◆2016/5/23・2016/6/26
 - 熊本災害支援
熊本県の災害支援活動を行いました。
- ◆2016/8/31
 - 熊本震災支援活動
熊本県での震災支援活動を行い、西原村からお礼状を頂きました。
- ◆2016/12/13
 - 第9回 高校生による福祉防災研修
高校生による、福祉防災研修を行い、新聞記事に掲載されました。
- ◆2017/02/19・2017/03/12・2017/03/31
 - 熊本を笑顔と笑いで支援プロジェクト
熊本にて、復興お笑い支援イベントを行いました。

2020年～2021年活動実績



- ◆2020/01/04～25
 - 相模原市緑区藤野地区 災害支援活動
相模原市緑区藤野地区の災害支援活動を行いました。
- ◆2020/02/01～29
 - 相模原市緑区藤野地区 災害支援活動
相模原市緑区藤野地区の災害支援活動を行いました。
- ◆2020/03/01～22
 - 相模原市緑区藤野地区 災害支援活動
相模原市緑区藤野地区の災害支援活動を行いました。
- ◆2020/03/01～22
 - 相模原市緑区藤野地区 災害支援活動
相模原市緑区藤野地区の災害支援活動を行いました。
- ◆2020/03/01～22
 - 相模原市緑区藤野地区 災害支援活動
相模原市緑区藤野地区の災害支援活動を行いました。
- ◆2020/06/05～27
 - 相模原市緑区藤野地区 災害支援活動
相模原市緑区藤野地区の災害支援活動を行いました。
- ◆2020/07/05～26
 - 相模原市緑区藤野地区 災害支援活動
相模原市緑区藤野地区の災害支援活動を行いました。
 - 九州豪雨災害 物資支援活動
九州豪雨災害支援として、物資支援活動を行いました。
- ◆2020/07/10～11
 - 熊本県球磨郡村渡地区 物資支援活動
令和2年7月豪雨災害で被害のあった熊本県球磨郡村渡地区へ物資等の配送を行いました。
- ◆2020年8月
 - 相模原市緑区藤野地区 災害支援活動
相模原市緑区藤野地区の災害支援活動を行いました。
- ◆2020/09/05～21
 - 相模原市緑区藤野地区 災害支援活動
相模原市緑区藤野地区の災害支援活動を行いました。
- ◆2020/10/04～2020/10/21
 - 相模原市緑区藤野地区 災害支援活動
相模原市緑区藤野地区の災害支援活動を行いました。
初心者講習会を行いました。
- ◆2020/11/21
 - 横浜市金沢区 災害支援活動
オールヒーローズプロジェクト連動企画横浜市金沢区工業団地クリーンアップを行いました。
- ◆2020/12/20
 - 東北っ地区子ども支援活動
東北の児童養護施設への子供たち向けに、クリスマスプレゼントを届けました。

2020年～2021年活動実績



- ◆2020/03/01～2020/03/22
 - 相模原市緑区藤野地区 災害支援活動
相模原市緑区藤野地区の災害支援活動を行いました。

- ◆2020/06/05～2020/06/27
 - 相模原市緑区藤野地区 災害支援活動
相模原市緑区藤野地区の災害支援活動を行いました。

- ◆2020/07/05～2020/07/26
 - 相模原市緑区藤野地区 災害支援活動
相模原市緑区藤野地区の災害支援活動を行いました。
 - 九州豪雨災害に物質支援活動
九州豪雨災害に物質支援活動を行いました。

- ◆2020/07/10～2020/07/11
 - 南部豪雨災害被災地支援
令和2年7月豪雨災害で被害のあった熊本県球磨村渡地区への物資等の配送を行いました。

- ◆2021/01/18
 - 長野県産災害リンゴ支援活動
長野県で被災したリンゴ農園さんのリンゴ販売支援活動を行いました。

- ◆2021/02/12
 - 神奈川新聞に支援活動記事掲載
相模原市緑区藤野地区の支援活動時の写真が神奈川新聞に掲載されました。

- ◆2021/08/9
 - 活動拠点『かけはし・やなぎばし』をオープンいたしました。
(地域支援、地域防災拠点、子ども支援、地域の場としての開設)



御協力団体等(順不同、敬称略)

兵庫県立 舞子高等学校 (諏訪先生方)
神戸学院大学・神戸学院大学付属高校 (福島先生方)
不二熱学工業株式会社、アート引越センター
情報産業労働組合連合会
岐阜NPOコミュニティサポートスクエア
ニトリ、金馬車、ホンダ、石塚観光、ガリバー
日産フォークリフト、ナザレン教団
東松島復興協議会、ハビタッド、土浦社協、平成観光
Aboc社・東北震災支援事業、ふんばろー一京都
がんばっぺ宮城、ふんばろー宮城
大和市、大和市社会福祉協議会、イーパーツ
神奈川県、県教育委員会、神奈川県社会福祉協議会
神奈川県中央共同募金会、日本財団
中央共同募金会、Yahoo基金、大和証券財団
全労済、真如苑、連合愛のキャンパ、ハタチ基金
情報産業労働組合宮城県協議会、NTT宮城労働組合
情報産業労働組合連合会、NTTドコモ東北労働組合
NTT西日本労働組合、連合、(株)安藤建設
神奈川県建築安全協会、株式会社太陽住建
ノエビアグリーン財団、大塚商会ハートフル基金
全国社会貢献団体機構、
特定非営利活動よこはま・七つ星
など、多くの方からご協力を頂いております。
心より 感謝申し上げます



活動拠点『かけはし・やなぎばし』での活動状況(チラシ)

「かけはし・やなぎばし」遊びに来てね!

こども食堂 **防災拠点**

11時からお弁当を配るよ!!

8月9日(月・祝) オープニングイベント

AM11:00~12:30
かけはし・やなぎばし
大和市柳橋2丁目8-6
小田急線「桜ヶ丘駅」徒歩10分

お弁当配布 限定50食!!
チラシご持参のおさま限定

めだかもらえるよ!
容器を持ってきてね
保護者に確認をもらってね!

清掃活動実施
草刈り
道路そうじ
やります!

無料バザー
衣服・食品・災害備蓄食
などいろいろ

相談コーナー
避難ボランティア
してほしいこと
相談に応じます!

求む! ボランティア
子ども支援・災害支援
ボランティア
募集しています

太陽活用して節約!
ソーラーパネル展示
協力:太陽住建

ボランティア内容紹介
料をする? ボランティアって
ほんとにも、できる?

機材展示 (災害復旧支援)
災害が起きたとき
支援に使うものって
なんだろう?

**アレルギー対応は
できません。対象の方は
ご注意ください**

**食の支援
子ども達への
支援活動を行っています。**

【開催日】
毎月第1日曜日
今回は9月5日
午前11時~

**お弁当は
無くなり次第終了
アレルギー対応は
行っていません**

【場所】
「かけはし・やなぎばし」
大和市柳橋2-8-6

**一人で子育て
している等で、
お困りのご家庭に
このチラシの内容を
紹介してください!!**

チラシもって、マスクして、「かけはし・やなぎばし」にきてお!!

連絡先 / info.united.kanagawa@gmail.com TEL 090-9349-5410 (市原)

主催 / 特定非営利活動法人(申請中) ユナイテッドかながわ(UK)
一般社団法人(非営利型) やまと災害ボランティアネットワーク(YSV)

協力 / 株式会社太陽住建 <https://www.taiyojyuku.jp/>

子ども食堂 **子ども・一人親
家庭支援など**

**「かけはし・やなぎばし」
子ども食堂がスタート
します!!**

【開催日】
毎月第1日曜日
今回は9月5日
午前11時~

**お弁当配布
子ども:無料
限定20食配布**

**お弁当は
無くなり次第終了
アレルギー対応は
行っていません**

【場所】
「かけはし・やなぎばし」
大和市柳橋2-8-6

**一人で子育て
している等で、
お困りのご家庭に
このチラシの内容を
紹介してください!!**

**食の支援
子ども達への
支援活動を行っています。**

【主催】
特定非営利活動法人(申請中) ユナイテッドかながわ(UK)
一般社団法人(非営利型) やまと災害ボランティアネットワーク(YSV)

【メール】 info.united.kanagawa@gmail.com
【電話】 090-9349-5410 (市原)

協力 / 株式会社太陽住建 <https://www.taiyojyuku.jp/>



フードパントリー
in フードパントリー:食品無料配布

かけはし・やなぎばし
(大和市柳橋2-8-6) 

今回の開催は
公式LINEにて
ご案内します!

11月5日(金)
19:00~ 無くなり次第終了

ぜひお越しください!
食品提供も募集しています

公式LINE「かけはし・やなぎばし」

- こども食堂のお知らせ
- 子ども体験事業のお知らせ
- フードバンク/パントリー活動

など、子ども支援、
ひとり親家庭支援に関する
お知らせをしています。
お得な情報をお届けします!
友だち追加してね!

主催: 特定非営利活動法人ユナイテッドかながわ
一般社団法人(非営利型)
やまと災害ボランティアネットワーク

協力: 株式会社太陽住建 / ハイム桜ヶ丘子ども会

電話 090-9349-5410 (市原)
Email info.united.kanagawa@gmail.com

LINEでもお問い合わせできます!
← 友だち追加してください!




**かけはし
やなぎばし
子ども食堂 通信**

**次回の子供食堂の
開催は12月5日(日)
11時からです。**

★次回のメニュー★

ツナトマト
スパゲティ
★
温野菜の
チーズ焼き

★イベント★

カップケーキの
テコレーション
ができるよ!!

★おわがい★

**エコバッグを
持ってきてね!!**

【主催】
特定非営利活動法人ユナイテッドかながわ(UK)
一般社団法人(非営利型) やまと災害ボランティアネットワーク(YSV)

【メール】 info.united.kanagawa@gmail.com
【電話】 090-9349-5410 (市原)

協力 / 株式会社太陽住建 <https://www.taiyojyuku.jp/>



はじめの一步から、約21年が過ぎ
たくさんの人々との出会いのなかで
紆余曲折しながら一步一步前に進み
木の年輪のように広がってきました。
ご協力、ご理解をいただきました皆様
本当にありがとうございました。

これからも皆さんと共に
また、**【特定非営利活動法人
ユナイテッドかながわ】**と共に
歩んでまいりたいと思います。

代表理事 市原 信行

一般社団法人やまと災害ボランティアネットワーク 21年間活動報告書

発行 2021年11月6日

発行者 一般社団法人やまと災害ボランティアネットワーク